October

京都教師塾通信
No.2

令和２年 10 月 31 日

学 び の 広 場

京都市教育委員会　教員養成支援室

第１５期
「京都教師塾」

第１５期京都教師塾　入塾式

第 15 期京都教師塾は入塾者 273 名でスタートしました。10 月 17 日に行った入塾式は感染拡大防止のため 4 会場に分かれて実施し，231 名の塾生が参加しました。また，20 日に行った補講には 27 名の塾生が参加しました。緊張しながらもこれから前向きに頑張っていこうという意気込みが伝わり，今後の成長が楽しみです。

心の中には不安や迷いもたくさんあることと思います。しかし，皆さんは一歩前に踏み出しました。9 ヶ月後には，より成長した自分自身に出会えるように，学びを積み重ねていきましょう。

補講による入塾式

第１回京都市教育学講座　　荒瀬　克己　指導部顧問
「教師に求めるもの　～京都教師塾開講にあたって～」

京都教師塾開講にあたって，教育の本質となる部分のお話をしてくださいました。高大接続改革のお話を切り口に，幼稚園から大学までの連続した学びを意識することが大切だと強くおっしゃっていました。また，「資質・能力」「教育課程」「カリキュラム・マネジメント」等，ふだん当たり前に使う言葉について，どういう意味で何のために行われているのかといった『問いを立てる』こと，そして人と話し合っていく中でそれらの定義の共有が必要だということを教えてくださいました。また，将来教育に携わる皆さんに向けて，子どもが本来持っている力を見出す責任を果たしていって欲しいというメッセージをいただきました。

初めての分散会では，「これからの時代，教師としての使命を果たすために大事にしたいことは？」をテーマに話合いを進めました。貧困や格差，少子高齢化といった課題が山積するこれからの時代に生きる子ども達のために，教師として何を大事にしていきたいかについて話し合い，全体交流を行いました。初めての分散会での経験を通して，思いや考えを相手に伝えること，また相手の話に耳を傾けることの大切さを実感し始めているのではないでしょうか。まだまだ不安もあることと思いますが，素晴らしいグループアドバイザーの先生，同じ志をもつ心強い仲間と一緒に考え続けていきましょう。

１組

このコーナーでは，「レポート集」に綴られたすばらしい学びの１ページを紹介します。
ぜひ，仲間の学びにふれてみてください。

第１回京都市教育学講座【講義】
「教師に求めるもの～京都教師塾開講にあたって～」を受講して

①　全体会

教員に求められるものとして資質・能力といわれているが，この資質・能力とはそもそもどのようなものかということを考えることができた。資質は生まれつきの能力と定義づけられているが，教育として考えると，もとある力を更に向上させていくこと，後天的に身に付けさせるということの観点で理解できた。また，学力の３要素にある「主体的に学習に取り組む態度」という主体性は，人間誰しも生まれ持った能力だと感じた。この生まれつき持っている能力である主体的な態度を教員としてどう生徒から引き出してあげるかが大切だと思った。そしてその方法というのは，ほめたり言葉をかけたりする態度のみならず，環境を作り出すことも重要であると思った。この講義で「定義の共有が必要」というワードが印象に残った。教職に携わる上で教育課程，カリキュラムマネジメントなど一般的に理解しておくべき言葉が存在するが，一つ一つどういう意味で何のために行っているのか常に問いを持ち，それを学内や地域間で共有することが必要だと理解した。

②　分散会

自分が講義から考えたことや理解できたことを言葉にすることで，自分の中で認識して整理することができた。また，３人の意見や全体交流のグループ代表の意見を聞いて，自己肯定感を生徒にどう持たせるか，どう成長させてあげるかを考えていくことが教員として大事だと感じた。そのためには自分自身が自己肯定感を高めることも大切だ。同じ志を持っている仲間の意見を聞くことは自分の考え＋αになり，それによって多方面の考え方を持つことができた。意見を言うだけではなく，どう伝えれば人に深く伝わるのかということも，１組のメンバーから今日だけでもたくさん吸収することができた。毎回感じたことを理解に変え，人に伝え共有し合うことを積極的に実践していこうと強く思った。

③　まとめ

教育学講座で学んだことから自分の中で整理し，知識として貯蓄しながらも常に why？という問いかけを忘れずに，積極的に課題を生み出し，解決していくようにしたい。　～塾生のレポート集より～

新しい教育での重要な内容が凝縮されたお話でしたが，そのポイントについてしっかりと考えることができたようですね。キーワードである資質と能力は，はっきりとした境界が引けるものではありませんから，「資質・能力の育成」とセットにして用いることになります。大切なのはこれから先で，各校がこの資質・能力をどの様に具体化し，定義を共有していくかです。「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」「チーム学校」など，具体化しなければ実践には繋がりません。自分一人で考えるのではなく，チーム学校として「定義の共有」が重要ですね。分散会でも話題にされた「子どもと教師の自己肯定感」についても良い話合いができた様ですね。他者との交流で互いに高め合うことの大切さ，この教師塾でも新しい時代の教育でも大事にしてください。

～レポートへのコメントより～

３組

５組

７組

９組